

# 富士のさと 防災・減災キャンプ

令和5年1月21日（土）～1月22日（日） 1泊2日



## ○目的

防災・減災について自分ごととして捉え、“自助”“共助”に関して深く考える機会にする。また、災害救助の第一線で活動する自衛隊と交流し、“公助”についても学ぶ機会とする。2日間の体験活動を通して不自由さを体感するとともに、避難所体験を経験することで被災者と支援者の両面を学ぶ場とする。そして、防災・減災の大切さに気づき、日常生活の中で役立てられるようにする。

## ○参加者

小学校4～6年生 30名（男子：17名、女子：13名）

## ○本事業の特徴

日常生活では感じるできない不自由さを体験し、“自助”“共助”を学ぶプログラムとする。また、災害救助の第一線で活動する自衛隊と連携し、“公助”についても学び、防災・減災に向けた一歩を踏み出すために活動する。

## ○事業内容（参加者の様子）

寒さも厳しく、ライフラインも制限された中ではあったものの、30名の子供達は各プログラムに対して意欲的に取り組んでいた。不自由さを体感しつつ、仲間と協力して活動する姿が多く見られた。

### 【事業1日目】1月21日（土）

#### (1) アイスブレイク

自己紹介や夢を語るシートを通して、緊張をほぐし、初めて会った仲間との交流を深めることができた。

#### (2) 非常食体験（昼食）

2日分の非常食と飲み物が配られた。水を注いで食べるのできるパスタを実食した。

#### (3) 体験①（自衛隊講話、土嚢づくり体験等）

災害現場における自衛隊の活動について説明を受けた。隊員からの直接指導を受け、土嚢づくり体験を行った。

#### (4) 体験②（避難所設置体験等）

避難所を想定したプライベートスペース確保のため、テントを活用した。班員で協力してテント設置することができた。

#### (5) 非常食体験（夕食）

夜は温かい物が食べられるように、ご飯とルーが一体化したカレーを湯煎して実食した。

#### (6) 振り返り

水が不要なシャンプーを使って洗髪し、洗浄シートで身体を拭いた。歯は専用シートを指にはめて磨いた。活動の最後は、班ごとにランタンを囲み、1日の活動を振り返った。



みんな仲良くなろうよ



どんな味がするのかな？



初めて土嚢を作りました！



ランタンの灯りを頼りに

【事業2日目】1月22日（日）

（1）朝のつどい、非常食体験（朝食）

雪の積もる寒い朝ではあったが屋外でラジオ体操に取り組み、班ごと散歩も行った。その後、缶詰に入ったパンを実食した。



雪の積もる朝にラジオ体操

（2）体験③（火おこし体験）

班ごとに薪を割り、かまどに薪を組んで火おこし体験を行った。仲間と協力して、全ての班が火をおこすことができた。



みんなで力を合わせて

（3）炊き出し体験

役割を分担し、かまどとカセットコンロを使って豚汁と炊き込みご飯を作った。非常食が続いたため、自分達で作ったご飯は格別だったようで、参加者は自然と笑顔を浮かべて食べていた。



避難所前で記念撮影

（4）講話、ワークショップ

2日間のキャンプを振り返り、防災・減災について大切なことを再確認した。班ごとに意見を交わし、学んだことを発表し合い、全体で共有した。全ての班にチームワークが生まれるとともに、参加者は不自由さを経験したことで逞しい姿に成長した。

《参加者の声》 ※事後アンケートより

- ・班で協力できたし、仲良く学べた。いつもとは違う体験ができた。
- ・貴重な体験ができて良かった。本当に楽しかった。また参加したい。
- ・不便さを感じることができ、有難さも学べた。実習生の方も親しみやすく、心に残る経験になった。
- ・いつものご飯が食べられるだけで幸せだと思った。非常食は意外と美味しかった。
- ・もし災害が起こったら、2日間の経験を活かして落ち着いて行動したい。自分を守れたら、次は他の人を助けたい。防災グッズを家に備えたい。

《アンケート結果の考察》

不自由さを体感する中、仲間と協力して活動することで、実りある学びになっていった。特に自衛隊との連携は大きく、災害時の様子等をリアルに感じることに繋がった。時期的に寒さも厳しい中ではあったが、防災・減災に対して楽しみながら学ぶ姿があった。厳しい環境であっても、子供達の意欲が高まる仕掛けがあれば、より深い学びへと発展することが伺えた。

《成果と課題》

- 自衛隊との連携により、活動内容の幅が広がったことで防災・減災を学ぶ場として、より良い環境となった。時期的に寒さは厳しく、キャンプ自体が電気を制限する内容ではあったが、その分の学びも大きかった。子供達が前向きに取り組んでいたため、予定通りプログラムを進めることができた。
- 募集定員24名のところ、35名の参加申込みがあり、感染症対策を講じ、安全に運営できるように努め、全員の参加（実参加者30名）を受け入れることとした。寒さや不自由な環境であったこともあり、体調不良者等が数名出てしまったが、班付きリーダーが随時健康チェックを行い、体調等の変化に速やかに気付くことができた。体調等の把握を円滑に行い、保護者へ情報を正確に伝達した。
- いつ起こるかもわからない災害に備え、本事業に限らず、日常生活から防災・減災を意識した行動が取れるように、今後の事業計画においても考慮していきたい。今回、地元の新聞等で本事業が紹介されたが、この立地を活かし、自衛隊との連携を密にしていくなかで、本事業を様々な形で波及していく必要がある。